

ユウゼン堀り — 金剛ヶ丘 —

麻生と金剛団地の松林のなかに溝堀跡^{みぞほりあと}があります。

むかしから、これをユウゼン堀りと呼んできました。

当時、農民は、とても苦しいくらしをしていました。苦勞してとれた米は、五公五民^{いこうごみん}といって武士に年貢^{ねんぐ}として取りたてられていました。

けれども農民はくじけないで、厳しい労働にも耐えていました。

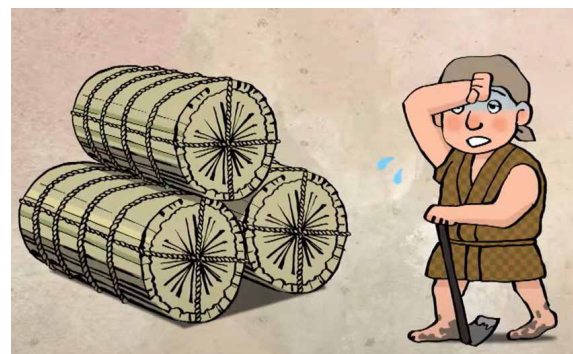
ころが、齋宮、竹川など五つの村が神領^{しんりょう}になって田丸藩から水がもらえなくなったのです。

さあ、農民たちは苦しくなりました。

そんな時です。竹川の還愚院^{げんぐいん}というお寺の住職が、
「はらい川から水を引こう！」

とみんなに相談したのです。

農民は神にも祈る気持ちで、鍬^{くわ}や鎌で溝を掘りました。



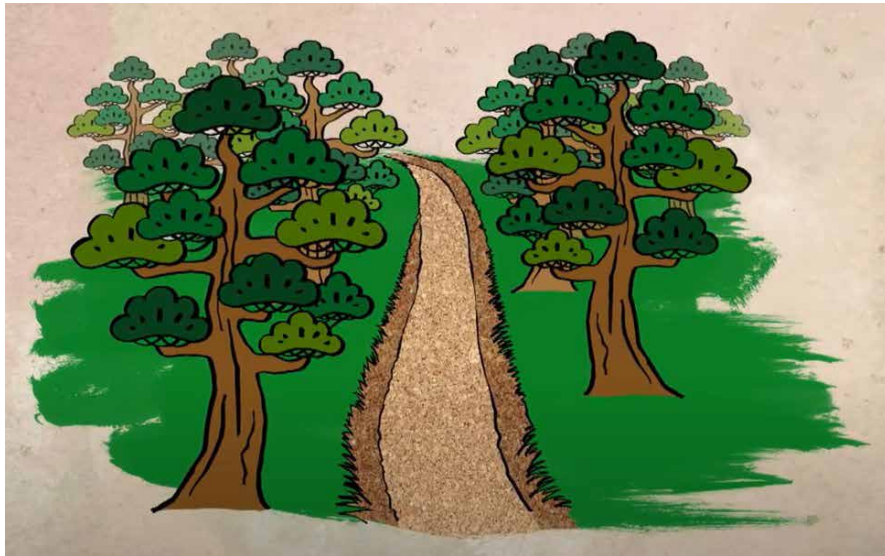


くる日もくる日も、みんなで助け合って作業をしたにもかかわらず、溝は砂地であったために、水がもれてしまうのです。

農民の必死の努力もむなしく、水のない溝ができてしまいました。ユウゼンとは、その開墾主唱者であった還愚院の和尚さんかいこんしゅしょうしゃの名前をとってつけられたということです。

(注)

・五公五民=とれた米のうち半分を年貢におさめ、半分を自分のものとする。



現在も残るユウゼン堀り

キーワード：みんわ、金剛坂、ユウゼン堀り、農業、還愚院

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみんわ』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしようしています。